

1 研究開発プロジェクト名:

地域高齢者の自宅生活延伸モデル構築のための実証研究（他地域に適用するための標準モデルの構築）

2 当該年度の研究開発プロジェクト実施予定期間:

2016年02月01日から2019年03月31日 / 3年計画の1年目

3 応募者

氏名	勝亦 真一
所属機関	セコム株式会社
所属部局	SMARTプロジェクト
職名	プロジェクトリーダー

4 研究開発プロジェクトの概要

超高齢社会を迎えた日本において、社会保障費を減らすことは喫緊の課題であるが、そのために高齢者が自宅生活を延伸するための環境を整備する必要がある。セコム株式会社では、実際に高齢者の相談窓口となる「セコム暮らしのパートナー久我山」を開設し、東京都杉並区を中心とした地域限定で、高齢者が抱える日常生活上の困りごとを受け付け、解決のお手伝いを行うサービスを2015年4月から提供している。本研究開発プロジェクトは「暮らしのパートナー久我山」で提供するサービスを通じて、高齢者が自宅生活を継続するために必要な要素の抽出を行い、他の地域でも提供可能なモデル構築を行うことを目的とする。

このプロジェクトでは、地域の各種サービスを必要に応じて組み合わせながら、個々の健康・身体状況に応じた生活支援を行う。また、従来セコムが持っている見守りのためのセンサ技術や災害情報等の収集技術に加え、高齢者の自宅生活に対して市場に出回っている各種センサ技術やコミュニケーションロボットのフィージビリティスタディを行うことで、世帯構成の変化やそこに住む高齢者の状況をとらえるために必要な情報の取得と整理を行い、効率的かつ高品質な生活を継続するための支援プログラムないしサービスを開発・提案して検証を行う。

また、本プロジェクトにおける実証実験で想定される成果として、いわゆる地域包括ケアシステム構築に必要な運営体制や基盤のモデルを標準化し、他地域での展開をはかるとともに、介護保険を活用している方にも、個々の状況に合わせたサービス提供が可能となる混合介護モデルの構築、保険外サービスの市場活性化を目指していく。